

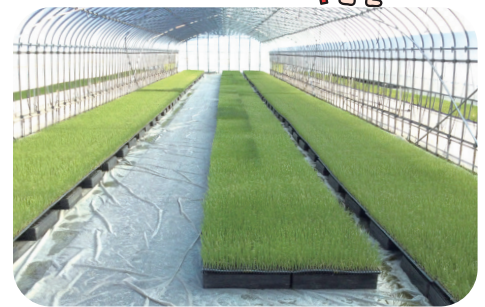


全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



滋賀県 JAレーク伊吹

担い手経営体などの意向を反映し、園芸作物の生産振興に取り組む



供給拡大に向けたタマネギ苗の育苗

P JAレーク伊吹では、農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けて、2018年から特産園芸振興の取り組みを開始。加工業務用タマネギ苗を中心とした園芸農家や家庭菜園向けの園芸苗の生産と安定供給のほか、実需者とのマッ

チングによる有利販売や園芸特産品の買取販売に取り組んでいます。

2022年度策定の中期経営計画および自己改革工程表では、「園芸苗の品目拡大と供給拡大」、「需要のある園芸作物の販売拡大」を重点施策に位置付けて数値目標を設定しました。

2023年度は、「園芸苗の供給拡大」について、前年の実績や農家組合員からの意見等をふま

えて修正した自己改革工程表を決定しました。2023年度も重点施策を一層促進します。

重点施策 園芸苗の供給拡大(供給量)

22年度目標 3,656,400本

活動の成果

22年度実績 5,136,030本

実績の評価

23年度目標(当初) 3,657,920本

目標の見直し

23年度目標(新) 5,185,000本

組合員の声を考慮

D 中期経営計画や自己改革工程表に基づき、取り組みをすすめています。

「園芸苗の品目拡大と供給拡大」では、水稻育苗ハウスの有効活用により、安価で安定した園芸苗を供給。

「園芸作物の販売強化」では、実需者とのマッチング促進による販売強化などに取り組み、新規取組者への作付け提案、北近江野菜の商標を活用した統一ロゴによる商品PRなどを実施。

C JAの園芸担当者が、継続した園芸作物の指導を通じて、担い手経営体を中心とした農家組合員との日常的な対話活動を実施しています。

また、農家組合員と共に農業経営の課題に向き合う中で、組合員のニーズを把握するとともに、JAの取り組みに対する組合員の評価や意見を確認しています。

A 農家組合員から得た意見や要望を取り組みに反映し、必要に応じて数値目標の見直しを行います。

特に、園芸苗(特にタマネギ苗)は、品質・価格ともに園芸農家からの評判もよく、家庭菜園向けに直売所で販売したものはすぐに売り切れ、他JAからの受注も断る状況となったことを受け、育苗ハウスのさらなる有効活用方法も検討したうえで、更なる供給拡大に向けて中期経営計画の供給量目標を上方修正することにしました。

